

The 40th 第40回東京モーターショー2007

TOKYO MOTOR SHOW 2007



News vol.12

平成19年11月5日

世界に、
未来に、
ニュースです。

Catch the News,
Touch the Future.



富士重工業

走りへのこだわりと地球環境の融合を追求



新型インプレッサのロードスポーツモデル「インプレッサWRX STI」

今回の東京モーターショーにおける富士重工業(スバル)のテーマは「Fantastic moments」。1958年に日本のモータリゼーションの先駆的な役割を果たした「スバル360」を発売してから来年で50周年を迎える。この間、高い安全性、優れた走行性能を追求し続けてきたスバル独自のこだわりを「快適・信頼の新しい走り」と地球環境の融合」という、新しいカタチで表現。人とクルマの理想の関係に向かって走り続けるスバルの取り組みを積極的に訴えかけているのが特徴だ。

プレスブリーフィングが行われた10月24日。西ホールのスバルブースでは、その感動の瞬間をより多くの人々に感じてもらいたいという思いを込めて、それまでステージ上で純白の布に包まれていた1台のクルマのベールが、森郁夫社長の手によってはがされた。新型インプレッサのロードスポーツモデル「インプレッサ WRX STI」の衝撃的なデビューである。

新型「WRX STI」は、歴代モデルが追求してきた“意のままに操る愉しさ”というドライバーズカーの本質をさらに進化させるため、「デザイン、エンジン、シャシー、ボディなどすべての性能、機能を一新させた」(森社長)。エンジンはスバルが得意とする水平対向2リッター4気筒ターボを搭載。スタイリングは新型インプレッサで開発した5ドアボディをベースに、ワイドボディのデザイン。ボディ前後のリフトバランスの最適化、大型リヤルーフスポイラーの採用により、空力特性を向上させた。

メインステージ上には、開放感あふれる空間と爽快な走りを実現したツーリング7シーター「EXIGA CONCEPT」と“次世代リチウムイオンバッテリー”を搭載した未来形の電気自動車「G4e CONCEPT」の2台のコンセプトカーとともに、新型「WRX STI」を展示している。デジカメを手にしながら待望のロードスポーツモデルの“造形美”に魅了される“スバリスト”が後を絶たない。



開放感あふれる空間と爽快な走りを実現した「EXIGA CONCEPT」



次期WRカーのプロトタイプ「SUBARU WRC CONCEPT」の周辺はいつも黒山の人だかり

プレスブリーフィングから



「電気自動車といえばスバル」と
誇れるような魅力ある
ブランドづくりを目指す

富士重工業
森 郁夫 社長

今回の東京モーターショーでは、スバルの変わらぬ思いを“Fantastic moments”という言葉に込めました。人とクルマの関係を、もっと豊かに、愉しめるために、挑戦し続けます。

例えば、エコカーの中で電気自動車の開発にしても「電気自動車といえばスバル」と胸を張れるような取り組みを行い、かけがえのない感動の瞬間を次々とカタチにしていこうと、存在感と魅力にあふれるブランドとして、より一層輝きたいと考えています。

人とクルマの理想の関係に向かってさらに走り続けるスバルにご期待ください。

西ホールにあるスバルブースの中央通路側のエントランスでは、WRCラリーなどの参戦でおなじみの次期WRカーのプロトタイプ「SUBARU WRC CONCEPT」が急勾配を走破するシーンを連想させるような勇敢なスタイリングで出迎えてくれる。展示コーナーの周辺は熱狂的なモータースポーツファンで、いつも黒山の人だかりである。

今回の出品車両は、「インプレッサ BEAMS EDITION」などの市販予定車や「レガシーツーリングワゴン 2.0GT SI-Cruise」、「ステラ ウイングシートリフトタイプ」などの市販車を含めて計12台。世界初出品のワールドプレミアは新型の「インプレッサ WRX STI」を含め、3台に絞り込んでいる。

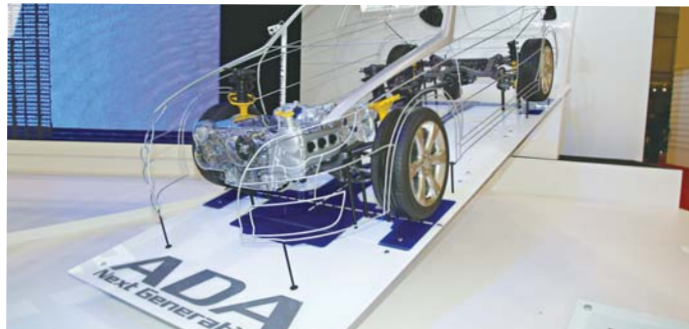
ステージ中央の真っ赤なボディのコンセプトカー「EXIGA CONCEPT」はスバルが長年培ってきたツーリングワゴンのパッケージングのノウハウを駆使し、低重心で重量バランスに優れた水平対向エンジンとそれを核としたシメトリカルAWD（全輪駆動）などの独自技術を組み合わせた7人乗り。俊敏で快適な走りと、開放的なモダンな室内空間が、このモデルのポイントだ。

そのステージの左サイドには電気自動車のコンセプトモデル「G4e CONCEPT」を展示。高性能電池「次世代リチウムイオンバッテリー」を搭載し、車体を軽量化することで、「1回の充電での走行距離を200キロに想定して開発を進めてきた」（開発担当者）という。しかも、バッテリーの充電は家庭用AC電源で8時間、公共の充電ステーションなら15分で80%の高速充電が可能となり、近距離の日帰りドライブなども夢ではないようだ。

技術展示では、2008年に欧州市場で発売予定の「水平対向ターボディーゼルエンジン」のパワーユニットと、ステージの右サイドには独自開発の前方認識装置であるステレオカメラと画像処理技術を大幅に向上させた次世代予防安全システム「ADA」のカットモデルを展示。第2の目によってドライバーをアシストするメカニズムを知ることができる。



“次世代リチウムイオンバッテリー”を搭載した電気自動車「G4e CONCEPT」



次世代予防安全システム「ADA」のカットモデル

昨秋から発売開始した和製スーパーカー「大蛇(オロチ)・市販型」2台を左右に従え、ステージ中央に展示された世界初出品の「大蛇・兜(オロチ・カブト)」は、日本古来の兜・鎧・甲冑を想起させるカーボンなどの軽量パーツを装着したデザインスタディモデル。

唯一無二を自負する「オロチ・市販型」のフロントフェンダーからリアへと流れる大きなうねりのボディシルエットを変えることなく、より戦闘的・攻撃的なデザインに仕立て上げた。内装部品には白金箔を施して“和の美”を強調。ダウンフォースを増加させるなど機能性の向上も図っている。

光岡は今後、海外市場も視野に入れ、ショー出品などを通じて「オロチ」の情報発信の輪を広げていくとしている。



「大蛇・兜(オロチ・カブト)」

IMPORTED EXHIBITS

ポルシェ

第6世代の「911」シリーズを中心に展示



▲「Cayenne GTS」

◀「911 GT2」

第6世代を迎えたポルシェ・スポーツカーの代表車種「911」シリーズのうち、今回ショーでは3.6リッター水平対向6気筒ターボエンジンを搭載した「911 GT2」、「911 Turbo Cabriolet」(911ターボ カブリオレ)の2台と、オールラウンダーの5ドアハッチバック「Cayenne GTS」(カイエン GTS)の日本初出品車3台をブースの中央に据えている。



◀「911 Turbo Cabriolet」

9月のフランクフルトショーでデビューした「GT2」の最高出力は530馬力、最高時速329キロと驚異的な数値を誇る。「ターボカブリオレ」はソフトトップルーフを持つオープンカーで、0-100キロ加速=3.8秒の加速性と合わせ軽快なドライビングプレジャーを満喫できる。4WD車「カイエン」シリーズでは、オフロード走破性を一段と高めた新型「GTS」の他に、「カイエン ターボ」搭載のV8ターボエンジンと駆動系を合わせたユニット技術展示なども注目を集めている。

ヒュンダイ

コンセプトモデル「QarmaQ」には先進環境技術が満載



日本初出品の4シーター・コンセプトモデル「QarmaQ(カルマック)」、5ドア・ハッチバック車「i30(アイサーティ)」をはじめ、市販車を中心に6台を展示。



◀「QarmaQ」

▼「i30」



「QarmaQ」は自然と共存するイヌイットの住居からのネーミング。クリーンディーゼルエンジンや軽量プラスチックボディなど、2008年～2014年に発表予定の新モデルに装備する30以上の先進環境技術を、集中して取り込んでいるという。新素材を使って複雑な3次元の形状を実現し、ヘリコプターと同様に下方視野を確保するC字形の横窓を取り入れるなどのエクステリアデザインが斬新だ。

「i30」はワイドトレッド、ロングホイールベースのヨーロッパアンチストの最新型コンパクトカー。彫刻のような凹凸面構成がエレガントなムードをかもし出している。欧州市場投入車だが、日本でも近く発売する。

モータースポーツジャパン

9月のお台場の感動をそのままに——モータースポーツ ジャパンが初出展

東京モーターショー会場2階の中央ホールにブースを構えるモータースポーツジャパン(MSJ)。国内乗用車メーカー全社、JAF、各種モータースポーツ競技団体から成るモータースポーツジャパン組織委員会が今年より新たに、東京モーターショー主催団体の日本自動車工業会(JAMA)の後援を得たことで初出展に踏み切ったもの。

ブースではMSJが9月23日、24日に東京・お台場で13万人以上の来場者を集めて開催した「モータースポーツジャパン2007 フェスティバル」の模様や、日本のモータースポーツの歴史・文化などをパネル展示。「今後ますますJAMAさんとモータースポーツを軸とした連携拡大を進めていきたい」(MSJ事務局)としている。



50年に及ぶ日本のモータースポーツの歴史・文化を各種パネルで紹介

東京モーターショーシンポジウム 2007 走る気持ち、ひろがる世界 ～福祉車両のある豊かな生活～

■基調講演・コーディネーター：

生島 ヒロシ(キャスター、タレント)

■パネリスト：

長屋 宏和(カーレーサー、デザイナー)

国井 律子(エッセイスト)

岩井 推・春子夫妻(福祉車両ユーザー)

■主催：日本自動車工業会

11月3日開催



旅行やショッピングなどに出かけたいと思う気持ち、自由に走りたと思う気持ちは、すべての人の共通の気持ちである。高齢者や障害などで出かけることを負担と感じる人たちの移動をサポートし、その思いを実現させてくれるのが福祉車両。

シンポジウムでは、まず、コーディネーター役の生島氏が8年間に及ぶ義母の介護体験を通して、「福祉社会や福祉車両に期待すること、考えること」をテーマに基調講演を行った。高齢化社会が加速する中で、生島氏は「人生には3つの坂がある。上り坂と下り坂、そしてもうひとつは“まさか”」と述べ、「他人ごとのように、ある日突然、認知症や障害を持つ可能性があ

る」と指摘し、その場合でも「希望を捨てずに明るく生き抜くことが大切だ」と強調した。

第2部のパネルディスカッションに移ると、レース事故で実際に障害を負った長屋氏は「自操式の福祉車両と出会うことで生きる喜びを与えられた」と語り、国井氏は、今年夏、突然不治の病に見舞われた父親の介護体験を報告。さらに、岩井夫妻は福祉車両ユーザーの立場から日常生活風景をVTRで紹介しながら「お陰様で日々の生活を楽しんでいる」と感謝の弁。最後に生島氏が「まだまだ福祉車両への認知度が低かったり、価格面を含め、メーカー側ももっと努力してほしい」と訴えかけた。

SPECIAL

大沢あかねちゃんも登場のエコドライブ・トークショー カッコいい「アクセルワーク」を伝授

ライフスタイルパークで11月3日、人気パーソナリティーのDJナイク(内藤忠)さん、タレントの大沢あかねさん、カーレーサーの新井敏弘さんをゲストに、「レッツ・エコドライブ2007～地球に優しいアクセルワーク～」が賑やかに催された。

初めの5秒で時速20キロにするのが目安の「ふんわりアクセル『eスタート』」で約11%、加減速の少ない運転で郊外だと約6%、市街地で約2%、早めのアクセルオフで約2%、合計で約2割もの燃費改善ができるアクセルワークのコツを知ってもらうのがショーの狙い。

自己流のエコドライブによる燃費改善率13.4%が、「地球に優しいアクセルワーク」実践後17.3%に向上したDJナイクさんは「自分も何か社



エコドライブ普及連絡会主催で行われた
トークショーとエコドライブ・コーナー
(シミュレーター・コーナーは11日まで開設)

会にいいことをしている気がした」。これにあかねさんが「男の人はクルマを運転している時に本性が出るっていうから、エコで安全な運転をしている人ってカッコいい」とエール。隣接のエコドライブ・シミュレーターをその場で体験した新井選手は「すっごく難しい」を連発しながらも、初回の平均燃費リッター当たり14.6キロ(参加169人中58位)を同16.5キロ(182人中3位)にまで伸ばして会場から大きな拍手を浴びていた。

EVENT

今日のイベント(予定)

**11月5日
(月)**

<ライフスタイルパーク(西休憩ゾーン)>

- **ダブルダッチ**
10:45~11:15 / 15:45~16:15
- **bayfm78 東京モーターショーレポート**
11:30~12:00 / 14:00~14:30
- **WHO「運動器の10年」
キャンペーン トークショー**
12:00~13:00
- **トライアルデモンストレーション**
13:15~13:45 / 15:00~15:30

- **スロットカー・サーキット**(北ホール2階・キッズパーク)
10:00~18:00
- **ミニシアター～クルマの夢・楽しさ・素晴らしさ～**
10:40~12:25 / 13:05~17:35 (国際会議場3階 302号室)
- **4×4 アドベンチャー同乗試乗会**
11:00~16:00 (幕張海滨公園Gブロック内 特設専用コース)
- **セーフティドライブ体験試乗会**
11:00~16:00 (幕張海滨公園Gブロック内 特設専用コース)
- **クリーンエネルギー車同乗試乗会**
11:00~16:00 (幕張海滨公園D・Eブロック内 特設専用コース)
- **商用車同乗試乗会**
11:00~16:00 (幕張メッセ周辺公道
幕張メッセ南休憩ゾーン東側通路発着 東ホール東側)

※試乗券配布場所：幕張メッセ南休憩ゾーン西側 ※天候等の都合により予定が変更になる場合があります。



KONICA MINOLTA

毎分**65枚フルカラー**出力 印刷から加工までインラインで高速処理。
※A430 多様なニーズに応えるハイパフォーマンス。

The essentials of imaging

フルカラー・オンデマンド高速印刷システム ON DEMAND PUBLISHER C65



このニュースは、コニカミノルタ
ON DEMAND PUBLISHER
C65で出力しています。

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社
プロダクションプリント事業部
TEL.03-5205-7820
URL: <http://konicaminolta.jp/pr/odp>

The 40th

TOKYO MOTOR SHOW 2007
11月4日の入場者数 **136,200人**入場者数累計 **852,900人**

東京モーターショーニュースVol.12 2007年11月5日発行

発行所 社団法人 日本自動車工業会 広報室
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
TEL.03-5405-6119 FAX.03-5405-6136
WEB SITE www.tokyo-motorshow.com

JAMA